

千代田区次世代育成支援推進会議
平成 2 2 年度
活動報告書

平成 2 3 年 3 月
千代田区

目次

1 委員名簿	1
2 会議の開催状況	1
3 会議での検討内容の概要	
(1)第1回	1
(2)第2回	2
(3)第3回	4
(4)第4回	5
次世代育成支援推進会議におけるこれまでの取り組み	6

1 委員名簿

会長	恵泉女学園大学 大学院教授	大日向 雅美
副会長	児童健全育成推進財団 企画調査室長	野 中 賢 治
委員	株式会社 ベネッセコーポレーションベネッセ次世代育成研究所 調査研究課長・主任研究員	高 岡 純 子
〃	東京商工会議所千代田支部	舟橋 千鶴子
〃	青少年委員、児童館利用者保護者	西角 スミ江
〃	民生・児童(主任児童)委員	坂 口 純 子
〃	保育園保護者	佐野 友昭
〃	幼稚園保護者	青島 結子
〃	小学校保護者	荻原 弘樹
〃	中学校保護者	赤池 延浩
〃	次世代育成担当部長	保科 彰吾
〃	児童・家庭支援センター所長 〔参事(連絡調整担当)事務取扱〕	峯岸 邦夫
〃	子ども支援課長	眞家 文夫

この会議は次世代育成支援推進対策推進法第21条第1項の「次世代育成支援対策地域協議会」も兼ねている

2 会議の開催状況

回	開催月日
第1回	平成22年 8月30日
第2回	平成22年10月29日
第3回	平成23年 1月19日
第4回	平成23年 3月11日

東日本大震災のため開催中止

3 会議での検討内容の概要

(1) 第1回会議

今年度の推進会議の検討事項について

今年度の検討事項・検討課題の洗い出し・進め方などについて検討した

推進会議におけるこれまでの取り組みについて

事務局より、「推進会議におけるこれまでの取り組み」について説明を受けた。

< 委員の主な意見 >

- ・ 日々の感性の中から、いろいろな経験の中から、実は今こういう状況がある、こういうものが求められている。現在の施策は、この部分が欠けているだとか、もっと有機的につながればいいといったようなご発言も重要で、そこで制度の変更なり、あるいは場合によっては全く新しい仕組みを考えるということも視点としては大切だ。このことを踏まえ、本会議の役割としては、行動計画の進捗状況をチェックしつつ、計画はあくまでも計画なので、変更が必要だとの提案をすることも、この会議の重要な役割だ。
- ・ そもそも後期行動計画の進捗状況をチェックし、検討するということが大きなテーマの1つ

だ。それは定量的なデータをもとにしながらそれぞれが議論をするということは、1つ大きな柱になっている。もう1つは、後期行動計画の理念あるいは具体的な目標というのが挙がっておりこの中で特に重点的に、何を一番大事にすべきかについても議論していくことが大事。この2つが柱だと考える。

- ・ 有識の方からのご意見をいただきレクチャーしていただくということも重要だが、それだけではなく、現状と計画の内容というのは書かれてはいる中で、今一番ギャップがあるのがどこなのかということと、各項目の重みみたいなものの目ききをした方が良い。千代田区として、あるべき姿と現状のギャップ、特にどこが定量的に追いついていないのかということや、あるいは目標を修正するべきところというのはどの辺にありそうなのかということを確認し、これから議論することの議題を決めていくのが望ましい。
- ・ 千代田区のほうで問題意識に感じていることや、現在やっていることで、一番気にかかっているところなどを、まず教えてほしい。漠然とお話をすすめてもやはり拡散してしまうので、そのあたりもあわせてご説明をお願いしたい。
- ・ もう少し何か実際に把握しないといけないと感じている。区のほうでこの計画の中でこれを課題にしたいとデータも含め示してほしい。その上で、3月までの間に4回のタイムスケジュールを示すのがよいと考える
- ・ 虐待とか、家庭崩壊とか、親の教育力低下とか、そんなことが今問題となっているのはいいか。そこを千代田区の親、家庭に射程をきちっと置いて、どうしたらいいかというようなことを議論した方がよいのではないか。また、行動計画の目標と実態のギャップをどう評価していくかということも非常に区民としても大きな関心があり重要だと感じている。
- ・ 議論を進めるうえで、一番恐れていることは、漠然と今どきの親はとか、家庭は、子どもはという、個人レベルで議論をすることで、その段階は、とっくに超えなくてはならない段階かと思っているが、各委員の思いも共通だということを確認でよかった。
- ・ 基本のスタンスとしては区民としてどうであるか、そして、保護者としているその実態が皆様のお役に立てるのであれば生の声として情報を集めることは可能で、あわせて問題意識というものも提起をして、情報として会議の場でご提供することは可能だと思う。当然、保育園、小学校、中学校という立ち位置の方とともに、行政のほうにも、すでに行っている施策に関して、現場の区の職員の方々から問題点などの意見も上がっているかと思うので、そのあたりの洗い出しというのも必要ではないか。
- ・ やるべきことは、後期行動計画やニーズ調査などを読み込んで、これに沿い、それぞれの立場のもと、問題点、課題点というのを洗い出すということが必要だと強く感じている。

次回までに各委員から今年度の課題項目を事前に出してもらい、次世代育成支援後期行動計画の5つの目標にあてはめ、課題整理をすることになった。

(2)第2回会議

本年度の5つの検討課題について

前回の課題検討で5つに整理した検討課題について確認し合った。

【5つの課題】

- 課題1 保育園の待機児童対策
- 課題2 仕事と子育ての両立支援
- 課題3 放課後対策（子どもの居場所づくり）

課題4 親育ち支援

課題5 子育て支援サービス

<委員の主な意見>

課題1：保育園の待機児童対策

- ・ 各委員の皆様方から提起された課題として、保育園の待機児童の現状と今後の需給見込み等について、あと、保育園等の見直し（入所要件）についての2つがあった。
- ・ 22年中の0～5歳の増減では、昨年1年間で151人増え、これは人口の約8%。今年も同じ数だった。昨年151人増えて、これは例年の3倍で、結果33名待機になった。去年も151人増え、当初の供給計画が、今年の4月に開設予定のアスク二番町が、開設当初で歳児別の定員等合計70名となる。去年の待機が、1歳児が26名、2歳児が7名で、入園申し込み期限が1月なので、数がまだ確定せず、現在、待機解消はかなり厳しい状況である。
- ・ 多様な働き方に多様な主体がいかにきめ細かくこたえていくかということが今後の課題になってくる。具体的には、いわゆる保育ママということについての課題。14年から21年まで千代田区は23区唯一保育園の待機児童ゼロ。23年も、供給量がふえるが、0～5歳の増加が、区のほうの人口予測をはるかに上回るペースで推移をしている。区としても待機児解消についてさらに本腰を入れて取り組もうということで、予算もそういう形で積極予算を組んでいきたいと考えている。

課題2：仕事と子育ての両立支援

- ・ 1つは企業への働きかけと、あとは、仕事と子育ての両立支援の2点があった。た主な意見としては、企業への働きかけについては、意識改革を含めて説明がないと、そんなにふえないんじゃないかというご意見。あと、出産で会社を休んだ方が社会復帰するためには、男女平等以外にもっとポジティブな意味づけが要るんじゃないかというご意見。あとは、お金のことじゃなくて、最後は職場復帰したい、だから、預けるところが欲しいのではないかというご意見。あと、自分の子どもは自分で育てたいという方、そういう方はそういう選択肢があると。仕事に戻りたい方は戻れるという選択肢がある。そういうのが一番理想なんじゃないか。さらには、職場の近くで子どもが預けられることほどうれしいことはないんじゃないかというご意見。あとは、結婚して子どもが生まれて、一度仕事をやめて子どものことに専念するという方もいるのではないかというような意見があった。

課題3：放課後対策（子どもの居場所づくり）

- ・ 主な意見として、子どもの遊ぶ児童公園などに吸い殻入れがあるという問題。喫煙所がなくなった理由は、受動喫煙の前にマナーの問題じゃないかというご指摘。あと、休日とか学校休業日は子どもが家庭に帰り、家庭で親と子どもと一緒に何かするという位置づけだったのではないか。中高生の男女を問わず、小さな子どもと遊んだりする、両方のニーズをミックスするような場所や企画があればいいのではないか。児童館の日曜開館については、日曜日は家で親子というのが一番いいのではないかというようなご意見があった。

課題4：親育ち支援

- ・ 主な意見としては、潜在需要を掘り起こすのは、勉強会や相談窓口という改まったものではないほうよいのではないか。擬似的に世代を超えた関係をつくったらどうかというご意見もあった。また、「親育ち」という言葉そのものが、いわゆる上から目線、説教とか、そういう形になってしまうという意見。あとは虐待については、身体的、ネグレクト、心理的、性的、

4種類あるが、その分析が重要であり、虐待の加害者となった人が母親なのか父親なのか、実母なのか継母なのかということの分析が必要ではないか。あと、虐待の問題をこの項、親育ち支援でくくるのは無理があるのではないかというご意見があった。

課題5：子育て支援サービスのあり方

- ・ 主な意見としては、区の子育てサービスについてあまり知られていないので、「子育てガイドブック」などを活用し、幼稚園、保育園と連携して、人が集まる場所で説明する機会を設けたらいいのではないかと。新しいサービスを構築するよりも、現状のサービスを活用するやり方のアナウンスがまず必要ではないか。保護者会で日中働いている人は出席できないので、時間をずらしたり、何回かの設定をする、回数をふやすという工夫があるとよいという意見。父親だけの日というのを設けてもよいのではないかとというような意見があった。
- ・ いままで議論した課題以外でも、子育てという面で、幼稚園、保育園、児童館などには目を向けられていたが、小学校、中学校のほうにも目を向け、例えば、今、問題になっている授業日数について、中学校では特に土曜日の休みについてなど議論してもよいのではないかと。

(3) 第3回会議

新たな検討課題について

前回整理した5つの課題の確認と補足説明をし、新たに各委員から出された課題の確認をした。

【新たに出された課題】

- 追加課題1 子育て支援を子どもからの目線で考える 子どもが親と過ごす時間の大切さ
保育所の質について 常勤でなく、パート・個人事業主の女性の子育て支援
- 追加課題2 学童クラブ
- 追加課題3 中高生の居場所
- 追加課題4 学校土曜休業（授業時間数）

< 委員の主な意見 >

追加課題1

- ・ 千代田区も、家賃の補助とか、支援をした結果、若い人たちが増え、子どもも増えたことは一つの成果といえるのではないかと。
- ・ 区として、例えば千代田区次世代育成手当とか次世代育成住宅助成とか、かなり充実したそういった支援策をしているが、千代田区は居住費も含めて生活コストが極めて高く、子育ては最も経済的負担がかかるとの認識で、支援している面がある。また、特に現金給付をするのがいいのか、現物給付をするのがいいのかとの論争があるが、今のニーズについて、保育園に関していえば現物の給付が欲しいというのが多分保護者の皆さん方のニーズではないかと。
- ・ お子さんとの喜びを享受するということも大事にしつつ、やはり選択できることがすごく大事で、選択できるためには、必要な人が必要な保育を受けられる体制を整えていくということをして1つのベクトルとして出していくということが大事ではないかと。それは親の都合だけではなくて、すべての子どもが、親の生活状況に関係なく必要な養護と教育をゼロ歳から受けて、集団で育つ権利を保障するということが非常に大事な点ではないかと思う。これらの問題は、非常に大所高所から、有機的にから考えなくてはいけない問題であると思う。

追加課題2

- ・ 学童クラブは放課後で、かなり遊びというか、揺れがあっていいのでは。学校と違って、絶

対行かなきゃいけないわけではなくて、一応籍は確保しておくけど、子どもによって、その都合によってはある程度出入り自由みたいなところも認められてよいのではないかと。

- ・ 学童クラブを1つ担保にして、安全なところを1つ設けておいて、あと、親のほうのチョイスがあり、その辺で弾力化をやって、結果待機児ゼロを継続していますよという面がある。
- ・ 保育園問題の次は学童クラブとなるので、近い将来を見据えた対策はぜひお願いしたい。

追加課題 3

- ・ ゼロ歳から3歳位までのお子さんを育てている方たちのひろば事業とか、児童館の中での乳幼児の活動があるが、そこに来ている方たちに中学生とか高校生を、学校と協力したりとか、地域の児童委員の方などと協力しながら、触れ合いの体験をしてもらう。若いお母さん方とか赤ちゃんとも社会とのかかわりを持つということで、とても大きな効果があった例がある。
- ・ 児童館へ気晴らしに来ている高校生が多いが、そこの中でお仕着せのものをやると、皆逃げてしまう。赤ちゃんをだっこしたいという高校生がいっぱいいて、命の尊さみたいなのを実感している子も実際にいる。ただ、自然にやるとできるが、何か企画するとだめなのが現実。
- ・ 本当に当てにされている、年齢相応の扱いをちゃんとしてくれる、大人が子どもをちゃんとその年齢にふさわしく対応することで、大人に対する信頼も戻るので、ぜひ努力をしていただきたい。ソフトを工夫することが今は千代田区のメインだと思う。新しい建物をつくったり、あたらしいことを何かするというよりも、今持っているところを工夫する。また、もっと地域の力をおかりしたほうがいいのではないかと。
- ・ 本当に自由に、飽きたら帰ってもいいよぐらいの気持ちでやらないと、多分この年の子たちというのは食いついてこないと思う。だから、発信するのではなく、用意して待っているのがよい。また、この千代田区というところは、意外とテレビ局とかも多いので、スタジオはいっぱいある。ただ、お金がかかる。だったらこういう、区のほうがバックアップしてあげて、本当に安く借りられる、児童館みたいに自由に出入りできるというような場所をつくってあげたら、意外と食いついてくるのではないかと。

追加課題 4（事務局から説明）

- ・ 千代田区では、平成14年度に週5日制になった時点で、地域の方や、また、企業の方などをお願いをして、土曜日に学校に来ていただく体験的な活動だとか、スポーツ、文化的な、伝統的な、そのようなことを学ぶようなプログラムを随分つくった。そんな関係から、すべて一律にこの土曜日は授業をしようということは今のところは考えていない。ただ、今後、来年度から新しい指導要領実施になった段階で、学校の状況を見ながらまた検討していきたい。来年度はとりあえず学校がそれぞれ地域や子どもたちの状況、また、保護者の方からの要望を聞いて、週、もし土曜日、年間の中で、1回、2回だとか、数回だとか、振りかえ休業を行わない授業を設定することは、学校によって考えていこうということにしている。

(4) 第4回会議

東日本大震災のため急遽開催中止となった。このため予定していた議題の説明資料を各委員に配布し開催にかえた。

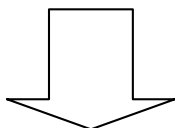
【配布資料】

平成23年度予算概要（子ども・教育部抜粋）「平成23年度 区の仕事のあらまし」
平成22年度千代田区次世代育成推進会議の開催概要

次世代育成支援推進会議におけるこれまでの取り組み

千代田区では、次世代育成支援対策推進法に基づき、平成16年10月に「次世代育成支援行動計画（前期）」を策定した。そして、下記の点について、一層議論を深めるために、平成17年5月に「次世代育成支援推進会議」を設置した。

- 1 行動計画に示された子育て支援策を評価するとともに、新規事業及び既存事業の拡充策を検討する。
- 2 子育てと仕事の両立を実現するために、企業に対してどのような働きかけを行えば有効か検討する。
- 3 行動計画を発展させ、子育て環境の整備のみならず、広く次世代の健全育成を考えていくには、千代田区の子どもに、どのように育ちどのように生きてほしいと考えているのか基本的な考え方を明確にすることを目指す。



<平成17年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 子育て施策全般

- (1) 子ども一人あたりの福祉・教育予算は23区内で最高水準にあるが、区の施策やサービス、先進的な取り組みに関する情報が子育て家庭に行き渡っていない。区の施策を一元的に提供することは勿論のこと、関連団体の活動も体系立てて提供していくべきである。

→「千代田区子育てガイドブック」の刊行

「千代田区総合ホームページ」の充実

- (2) 子育てしやすい地域社会となるためには、子どもを見守り、子育てを応援する活動やサービスを個別に提供するだけでなく、誰でも子育てに悩んだときには相談でき、解決できるという安心感の得られる場や総合的な取り組みが用意される必要がある。また、次世代育成支援を効果的に実施するという観点から、区の各部課が連携協力するための工夫が必要である。

→「チャイルドケアプランナー」の設置

「子どもと家庭に関わる総合相談」の実施

「こども・教育部」の設置

- (3) 千代田区の地域特性から、在勤者・区内企業を「昼間区民」として、次世代育成支援に取り組むパートナーとして位置づけ、積極的に働きかけを行っていくべきである。

→「次世代育成支援行動計画策定奨励金」の支給

認証保育所「キッズスクエア丸の内東京ビル」の設置

2 地域の子育て支援力

地域での子育て支援は地域活動を支える人材が鍵になる。また、地域で子育てを支えるということは、これまで育児への寄与度が低いとされていた父親の育児参加も不可欠な必要条件である。

→「ファミリーサポート制度」の推進

「ふたばサービス制度」の推進

「子育て・家族支援者養成事業」の推進

「地域の子どもサポーター」の養成と活用

3 子育てと仕事の両立

社員の育児を支援するに際して対応すべき人事労務管理上の問題について、他社の事例を参考にしたり、他社の担当者と意見交換することによって、よりよい対応策が見つかる可能性がある。また、企業が従業員の子育てを積極的に支援しても、保育園等地域生活における支援体制が整備されていなければ仕事と子育ての両立は困難である。そこで、区は、区内企業を集め、次世代育成支援の具体的な方策について意見交換・情報交換するとともに、企業と行政とのコミュニケーションの場を設けるべきである。

→「ダイバーシティ・マネジメント研究会」の設置

<平成18年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 理念策定

将来にわたって次世代育成支援施策の礎となる理念は、「条例」という形で明確にすべきである。また、条例化にあたっては、区民その他関係者による議論の場を設け、議論を深める必要がある。

→「次世代育成の理念を考える検討会議」の設置

2 両立支援

企業間の情報交換の機会を提供する必要がある。また、ワーキングマザーのストレスや悩みの解消、心理的閉塞感解消の場を提供する必要がある。

→「ダイバーシティ・マネジメント研究会」の設置

「Nobody's Perfect プログラム」等の実施

3 施策評価

次世代育成支援にかかる事業が多岐にわたっていることから、総体的に評価することは難しい。そこで、施策全体を評価するのではなく、評価すべき項目を、次世代育成支援組織体制、人の育成、子ども家庭支援センター機能の3点に絞り込むべきである。

→翌年度に評価を実施

<平成19年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

以下の11事業について施策評価を実施した（詳細は平成19年度活動報告書を参照）。

1 「組織体制」の分野

(1) 次世代育成支援を推進するための体制づくり

2 「人の育成」の分野

- (1) 青少年健全育成施策の推進
- (2) ファミリー・サポート・センター事業の充実
- (3) 子育て支援者の養成《計画外事業》
- (4) 地域の子どもサポーターの養成と活用
- (5) 子どもに関わる職員の対応能力の向上

3 「センター機能」の分野

- (1) 子ども虐待防止ネットワーク事業の推進
- (2) 子どもと家庭に関わる相談事業の充実
- (3) こども在宅サービスの充実（ショートステイ）
- (4) 子ども在宅サービスの充実（トワイライトステイ）
- (5) サービス利用のしくみづくりの推進（子育てガイドブック）

< 平成20年度の推進会議における提言とその後の施策化状況 >

1 次世代育成支援後期行動計画の体系

前期行動計画に示されている6つの視点5つ目標は普遍的なものであり、引き続きこれを後期行動計画の骨格として定め策定していく必要がある。

(1) 6つの視点

- ・多様なライフスタイルを認め合う
- ・子どもの幸せを第一に子育てを支援する
- ・親育ちを支援し、家庭の教育力を高める
- ・働き方の見直しは企業の社会的責任である
- ・地域の育児力を回復するとともに、地域のきずなを強める
- ・子育て支援サービスのあり方と区民の主体的な取り組み

(2) 5つの目標

- ・子どもがのびのびと健やかに育つよう、支援します
- ・子育てに喜びとゆとりをもてるよう、親と家庭を支援する
- ・安心して子育てできるまちをつくる
- ・子どもの成長に応じた経験や学びの場をつくる
- ・区民・企業・行政が一体となって子育てに取り組む

2 ニーズ調査の実施

子育てに関する生活実態やニーズの把握をし、結果を十分に分析し後期行動計画の策定検討する必要がある。

3 中高生アンケート

携帯やインターネットでの問題が起きている中、中高生の実態・本音が聴けるような設問にする必要がある。さらに、自分が周囲の人に大切にされているかについての設問も加え、千代田区独自のアンケートとして検討実施する必要がある。

<平成21年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 ニーズ調査結果

ニーズ調査の調査結果により千代田区次世代育成支援行動計画(後期)に盛り込むため、各事業の目標事業量を算出。

2 中学校・中等教育学校アンケート調査

千代田区次世代育成支援行動計画(後期)をよりの確に把握し、反映させるために、中学校・中等教育学校の放課後の居場所、家族との関わり、区内施設の利用、携帯電話やパソコンの利用など千代田区独自のアンケートとして実施。

3 千代田区次世代育成支援行動計画(後期)策定

1・2の結果に加えてインターネットのホームページ等でパブリックコメントを実施、平成21年度の次世代育成推進会議での議論、意見を踏まえて計画の策定は区が行なった。

4 千代田区次世代育成支援行動計画(後期)の概要

様々な違いや垣根を乗り越えて、お互いが理解し、認め合い、そして尊重し合う「共生」の理念のもと、家庭・学校・園・地域等がともに一体となって子どもたちを育て、また、自らも育っていく、いわば「共育」を実践するため、次の6点を基本的な視点として計画を策定した。なお、これらの視点は、今後、千代田区における次世代育成支援施策を展開していくうえでの指針ともしていく。

千代田区次世代育成支援行動計画(後期)の内容としては、5つの目標のもと、138事業(計画事業63事業+関連事業75事業(計画事業63事業のうち、計画上の新規は31事業))があげられている。

計画期間は平成22年4月から平成27年3月。

<平成22年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

次世代育成支援後期行動計画の5つの目標にあてはめ課題検討した

1 5つの課題・

- (1) 保育園の待機児童対策
- (2) 仕事と子育ての両立支援
- (3) 放課後対策(子どもの居場所づくり)
- (4) 親育ち支援
- (5) 子育て支援サービス

2 4つの追加課題

(1) 子育て支援を子どもからの目線で考える

子どもが親と過ごす時間の大切さ

保育所の質について

常勤でなく、パート・個人事業主の女性の子育て支援

- (2) 学童クラブ
- (3) 中高生の居場所
- (4) 学校土曜休業（授業時間数）

**千代田区次世代育成支援推進会議
平成 2 2 年度
活動報告書**

平成 2 3 年 7 月発行

編集・発行

千代田区教育委員会事務局

子ども・教育部子ども総務課

〒102-8688

千代田区九段南 1 - 2 - 1

電話 03 (5211) 4273